



苔・藻の対策は、冬場がポイント

バイオグリーン研究所

苔や藻は、冬場は活動していないように見えます。ところが大間違い。芝草が休眠期に入っている間、苔や藻は繁殖の手を休めていません。

この時期に、対策を怠ると翌年、更に苦悩することとなりかねません。

試しに、冬場の「コケチタン」や「Dr.芝用補酵素」の継続使用を徹底したコースは、確かに翌年に楽をしています。11月、12月、1月、2月が苔・藻対策の強化月間なのです。むしろ、冬場こそ、多めの回数と多めの施用量による、徹底対策が功を奏すのです。

苔や藻に関しては、考古学の立場からの文化遺産、遺跡などの植物学的な風化作用の防止という視点からも研究されています。

また、水産業の立場からの海苔(のり)の養殖という立場からも研究されています。

弱めの光量こそ、苔や藻の独壇場なのです。乱反射しやすい短い波長(420nm前後)の光でも、光合成に利用できる能力を持っているのです。

酸化鉄光触媒を組み込んだ酸化チタン光触媒の反応は、朝露などの水滴のイオン化、表面張力への影響、酸化還元電位の低下などの作用があり、弱い光、紫外線などにより複合酸化分解反応を起こすことにより、バクテリアなどの活性低下、苔や藻の活性を妨げる働きがあります。

最近、多くの人が出入りする建物や乗り物で環境常在菌と人々が出入りすることで侵入する移動細菌との「交差感染」が問題になっています。この為、抗菌タイルや抗菌カーテンが注目され、こうした技術が応用されるようになって来ました。また、悪臭の分解にも一役買っています。化粧版などの表面に塗られた酸化チタンの光触媒反応によって、アンモニア、ホルマリン、アセトアルデヒドなどの悪臭の分解、吸収剤として使われているのです。

農薬のような、劇的な効果はありませんが、環境に優しい、環境を乱さない、穏やかな対策方法として注目を集めています。